

学校教育目標	夢と志を持ち 果敢に挑戦し 自己実現する生徒の育成	経営理念	○ 21世紀をたくましく生き、社会貢献できる心豊かな生徒の育成(ミッション) ○ 課題に主体的に向き合い、解決に向けた行動を取ることでできる人材の育成(ビジョン) ○ 課題解決後の変化した世界の中で状況を把握し、目標を持ち、他と協力して課題に取り組むことのできる人材の育成。(ビジョン)
--------	---------------------------	------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価計画						自己評価				学校関係者評価		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
確かな学力	1	・主体的な学び手に育成する。	・問題解決の意欲をもち、基礎学力の定着を図ろうとする生徒に育成する。 ・各教科等における主体的な学びを実現する。	・学習過程に見通しと振り返りを位置づけ、自己の学習をメタ認知させる。 ・自分の考えを表現し、他者と練り合うことにより問題解決する授業を行う。	・「年間を通して、フォーサイトノートで計画と振り返りができた」と言える生徒が95%以上 ・生徒アンケートで「問題の解決に向けて、自分の考えを表現した」「集団で解決方法をさぐった」がともに80%以上	95%以上	62%	85%	89%	2	HR等での毎日の指導によりフォーサイトノートで計画と振り返りが定着してきている。	A	・フォーサイトノートの実物を見せてもらい、工夫すると活用しやすいノートだと感じられた。 ・自分を振り返るのにとっても有効なものである。先生のコメントもあつたよ。	・新3年生は、新年度からより実用的なフォーサイトノートを利用し、この取組を継続していく。
						80%以上	90%	84%	105%	4	研究部の授業研修などを行い、自分の考えを表現し、集団で解決方法を探る授業が生徒に意識づけられている。	A	・先生方が授業の中で工夫されておられたのを見て、生徒の満足感に通じると思った。	・職員研修・授業の工夫改善を行い主体的な学びを進めていく。
豊かな心	2	・自立・自律し、自他のことを大切に育てる生徒を育成する。	・想像力を高め、感謝できる生徒に育てる。 ・自己有用感を高める。	・読書活動や日々の記録を書く活動で広い視野と深い考えを持つようとする意欲を持たせる。 ・取り組みに対する自己評価と他者からの評価の前後の変化を自覚させる。	・「自分の読書傾向が把握できている」生徒が95%以上 ・「日々の記録をテーマを意識して書いている」生徒が80%以上 ・「自分の成長を実感できた」「自分を取り組んだことの価値が理解できた」生徒が80%以上	95%以上	76%	85%	89%	2	・今後(3月以降)、生徒各自に「貸出図書の種類番号別冊数」が学校図書館司書から渡されるため、達成値が変わってくると思われる。 ・後期から日記の取組が開始できた。	B	・司書の作成された資料は、各自の読書傾向も分かり、感心した。 ・傾向を生徒に自覚させることはよいことだと思ふ。小学校からの取組が大切である。	・幅広い分野の本を読むことの意義を伝える取組をしていく。 ・定期的に日記のテーマを設定して、考えを記入するなどの工夫をしていく。
						80%以上	68%	85%	106%	4	後期は前期より授業や学校生活の時間が増えたことで評価数値が上がった。	A	・コロナ禍の中、いろいろな行事ができないのに、工夫されて取り組まれている。	・行事や授業の内容を、工夫改善し、より自己有用感が高まるようにする。
健やかな体	4	・自己の健康と体力について理解し、高めようとする生徒を育成する。	・食や健康について主体的に考える生徒に育成する。 ・自己の体力の状況について理解し、目標をもって主体的に向上を図る機会を設ける。	・食について、生徒が自分で考え、できることを増やす「食育」を進める。 ・「自分の体力について理解し、自分なりの目標をもち運動している」生徒の育成。	・「食について、自立が進んでいる」に肯定的な評価をする生徒が全体の80%以上 ・「自分の体力について理解し、自分なりの目標を達成できるように運動している」生徒が全体の85%以上	80%以上	80%	82%	103%	4	「自分の健康を考えて食事ができている」と回答した生徒が81.8%だった。前期よりも食事について気を付ける生徒が増えている。	A	(コメントなし)	・教科横断的な指導を行うとともに、保健だよりや生活リズムチェックを通し、生徒たちへの食の大切さの啓発を行う。
						85%以上	75%	88%	103%	4	後期は前期と比較し、達成値が向上した。体力テストがなかったが、保健体育の授業内で目標を持たせることで意識が向上していると考えられる。	A	(コメントなし)	・保健体育科の授業において、自分なりの目標を持たせることを継続して取り組んでいく。
信頼される学校	3	・信頼される学校づくりを推進する。	・学校の取組の紹介や地域行事への参加による発信を充実させる。 ・生徒の躍動的・活動的な様子を広く発信する。	・教育目標の達成度を学校だより等で発信する。 ・月1回学校だより等により学校教育目標の達成の進捗状況を発信する。	・地域・保護者を対象としたアンケート等で、「生徒が意欲的に活動している」と回答した割合が90%以上	90%以上	50%	100%	100%	3	学校だよりの発行回数の増加に伴い、保護者アンケートの「本校の教育方針や特色が分かりやすく説明されている」の項目が前期に比べて肯定的評価が9ポイント上がった。	A	・コロナ禍の中、良く工夫して学校経営されていることに感謝する。 ・月末に各地域に配られる回覧板を活用されるのも方法と思う。	・学校だよりの新聞折込に代わる地域への配布方法を考える。
						90%以上	74%	72%	80%	2	各学年の総合的な学習の時間の研究発表や生徒会役員選挙、生徒会委員会活動等、質の高い活発な活動が行内では行われていたが、保護者や地域へ十分な紹介ができていなかった。	A	・生徒が真剣に学んでいる様子がうかがえて良い。卒業して、志和中が良かった、楽しかったと思える中学校生活であってほしい。 ・「志和地歴ウォーク」は生徒の活動がよく伝わる学習でもって感心した。 ・地域に中・高校生がいなかった。 ・地域行事への参加は難しいだろう。	・学校だよりやHPで、毎日の学習の内容や成果も地域に発信していく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価	
4...101%以上	3...100%達成
2...99~80%達成	1...79%以下

■学校関係者評価	
A...とても適切である	B...概ね適切である
C...あまり適切でない	D...全く適切でない
(N...判定できない)	